北海道旭川商業高等学校　言語文化
年間指導計画（1単位）

A　4時間	B　31時間		計　35時間

科目の目標

（1）　知識及び技能　　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

（2）　思考力、表現力、判断力等　　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

（3）　学びに向かう力・人間性等　　言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学年	第2学年	担当	
使用教科書	言語文化（数研出版）		

単元名														
			4・5月	5月	6・7月	8・9月	10月	11月	12月	1・2月	2・3月				月	月
			古典特有の表現を理解し、古典の世界に親しもう	文章の構成や語句に着目して、古代人の心情を理解しよう	日本の思想・文化に影響を与えた論語の言葉を集めよう	随筆文学軍記物語の面白さを発見しよう	現代の文学作品を読み、そこに描かれた様々な人間模様や心情を読み取ろう	自分も短歌作ってみよう	現代の文学作品を読み、そこに描かれた様々な人間模様や心情を読み取ろう	和歌に込められた心情や技法を理解し、考えを深めよう	漢詩の世界の美意識や願い・嘆きなどを味わおう					
指導領域		A　書くこと						○								
授業時数の計		4時間						4								
指導領域		B　読むこと（古：古典、近：近代以降の文章）	○古	○古	○古	○古	○近		○近	○古	○古					
授業時数の計		古典：24時間　近代以降の文章：7時間	4	4	4	4	3		4	4	4					
指導事項																
知識及び技能	（1）ア	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。		○												
	（1）イ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。					○		○							
	（1）ウ	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。			○											
	（1）エ	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。					○	○	○							
	（1）オ	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。								○						
	（2）ア	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。		○												
	（2）イ	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。				○										
	（2）ウ	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。	○		○											
	（2）エ	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。		○												
	（2）オ	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。					○	○	○							
	（2）カ	我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。					○		○		○					
思考力・表現力・判断力等	A書くこと ア	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。						○								
	A書くこと イ	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。						○								
	B読むこと ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。				○	○									
	B読むこと イ	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。	○							○						
	B読むこと ウ	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。			○		○		○							
	B読むこと エ	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。								○	○					
	B読むこと オ	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。		○		○										
教材名			ある人弓射ることを習ふに（徒然草）	芥川（伊勢物語）	論語	祇園精舎（平家物語） 門出（土佐日記）	「沖縄の手記から」田宮虎彦	短歌	「山月記」中島敦	和歌（新古今和歌集）	漢詩（王之渙・王翰・王維）					

※各単元の目標について

（1）「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

（2）「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。

※各単元の評価規準の設定について

（1）「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成する。

（2）「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。

（3）「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉、②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉、③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。